

建築・住居史

担当者：増井 正哉（生活環境学部・教授）

開講時期：後期

週時間：月曜3・4時限など

履修者数：45名

授業概要・目的

概要

建築・住居史は、現在の住環境を歴史的視点から評価するための基礎的知識を得ることを目的としています。講義では、先史から現在までの、わが国における建築・住居の歴史的展開について、奈良の歴史的建造物ができるだけ参照しながら、空間的形態・意匠・様式の変遷と、その社会的背景に重点をおいて講述してきます。

教育の目標

以下の内容を受講生に習得させることを目標にしました。

1. 日本建築史・住居史の基本的な流れを理解する。
2. 日本の伝統的建築・住居の構法・空間構成・意匠の基本を理解する。
3. 日本の伝統的建築の基本的な部位名称を覚える。
4. 歴史的建造物の保存修復の基本的な考え方を理解する。
5. 建築・住居・地域の歴史的特徴を読みとる力をつける。
6. 建築・住居に関するプレゼンテーションの能力を高める。

さらに、本年度は、生活観光現代GPの科目となったことから、以下の目的も加えました。

7. 奈良の歴史的建造物について理解を深める。



東大寺鐘楼

スケジュール

日程	内容
10月1日	建築・住居史入門 授業の目的・内容、GPとの関連を説明。
10月15日	日本建築のルーツ 奈良県内の遺跡を紹介しながら先史の住居・集落について講述。
10月22日	仏教伝来と寺院・建築 飛鳥・奈良時代の寺院建築について、最新の発掘報告を紹介しながら講述。
10月29日	古代都城と住居 東アジアにおける都城の紹介、平城京・平安京の空間構造について講述。特に奈良女子大学周辺の条坊についてくわしく説明。
11月5日	平安時代の社寺建築
11月12日	中世の建築様式 東大寺と興福寺の復興を事例に、中世建築の概要を講述。
11月19日	東大寺・興福寺見学 前回の授業で講述した内容を実際の建物で確認。
11月26日	寝殿造から書院造へ
12月3日	数寄屋造と茶室 慈光院等、奈良近辺の事例を紹介しながら講述。
12月10日	近世都市と城郭
12月17日	日本の民家 町家と農家 奈良県下の事例を紹介しながら講述

1月7日	奈良町見学 前回の授業をうけて、正木家、松矢家、奈良町物語館を見学
1月15日	日本の近代建築 奈良ホテル、奈良女子大学、南都銀行本店を事例に講述
1月28日	歴史的建造物の保存
2月4日	試験

取組内容・成果

1. 上記、スケジュールに書いたように、各回の授業のテーマにそって、奈良県下、あるいは近隣県の事例を中心に講述しました。
2. 中世建築と民家建築については、講義の次の回に見学日を設定して、実際の建築物を見学しました。見学先は、第1回目に東大寺南大門、同中門、同鐘楼、同法華堂、興福寺東金堂、第2回目に、正木家、松矢家、奈良町物語館、南都銀行本店としました。
3. 実際の歴史的建造物にふれることで、学生の理解が深まったと考えられます。
4. GP科目となったことで、文学部からの受講生が増えました。
5. 授業中の質疑応答も、質の高いものになりました。

今後に向けて

以下のことが次年度の課題としてあげられます。

1. 日本建築史を通史として講述するなかで、奈良の歴史的建造物を取りあげながら解説することは効果的でしたが、それだけでは通史を網羅できません。授業にさらなる工夫が必要です。
2. 文学部学生と生活環境学部学生との知識量に大きな差がありました。受講生全体が興味をもつことができ、また理解できる内容にしていく必要があります。
3. また、立地条件に恵まれているとはいえ、90分の授業時間で、見学できる対象は限られています。集中講義と組み合わせるなど工夫が必要と考えられます。
4. 次年度には、文化財行政の担当者・修復技術者等をゲストスピーカーに迎える予定です。



東大寺回廊での説明



東大寺南門